

原 けいじ

日本共産党 市議会議員



発行：日本共産党苫小牧地区委員会 苫小牧市見山町2丁目2番6号

自己紹介

原 けいじ

オフィシャルページ➡



1968年 北見市(旧常呂町)に生まれる。男ばかりの3人兄弟の真ん中、次男坊です。

1987年 北海道立網走南ヶ丘高等学校卒業
高校3年間は、列車通学、最後の国鉄湧網線通学生。卒業と同時に国鉄はJRへと民営化されました。

1993年 北海学園大学経済学部卒業

1993年 北海道勤医協入職

勤医協苫小牧病院など事務職として25年勤務

2018年 苫小牧市議会議員補欠選挙にて初当選。現在3期目

★趣味★

読書(最近は、東野圭吾、渡辺善則など)

野球観戦(一時期、高校野球観戦にはまりました。円山球場、麻生球場に通った記憶があります。青春の筋書のないドラマがありますね。聖地巡礼、甲子園球場への参上は、25歳の時。当時は、全国1勝が遠かった北海道勢。なので、駒大苫小牧の北海道勢初の全国制覇の感動は、今でも忘れられません。

私の決意

すべての世代が
安心してらせるまちづくりへ

今、世界で起きている無法な戦争によって罪なき市民の命、平穏な生活、人と人とのつながりが奪われていることに心を痛めている方も多いのではないのでしょうか。

今こそ、苫小牧市からの非核平和都市条例の精神が生かされる街づくりで、苫小牧市から、平和の発信をしていく役割を発揮するときです。

平和という土台があってはじめて成り立つ住みよいまちづくりです。

「なにより平和がいちばん！」この「世界共通の願い」を子供たちや、孫たちの世代にしっかりと引き継いでいきたいと思います。

苫小牧の魅力の一つに、ラムサール条約登録湿地であるウトナイ湖をはじめとした豊かな自然があります。

希少動植物が住むこの地域が人の手によって壊されることなく、自然を生かした観光都市としての街づくりこそ大切だと考えます。

こどもからお年寄りまですべての世代が、安心して暮らせるまちづくりに、これからも、市民のみなさんの声を議会に届けていく決意です。

生活保護制度の周知について

生活保護の利用者にとって、どのような支援が必要か、生活の状況をみながら、受けられる制度があれば、適切に制度利用に結びつくように援助するのが生活保護の仕事です。

ところが、この間、病院までの交通費について市民が問い合わせても「そのような制度はない」「出ません」という対応が続きました。対応した担当者の制度の不理解もあると予想されますが、担当者の習熟度によって対応に差が出ることは、生活保護利用者の不利益につながり、決してあってはならないことです。

誰が対応しても正しい対応ができるよう、担当ケースワーカーのスキルアップの仕組みの充実が必要です。

この間市は、「相談があれば対応している」「申請がなければ支給できない」というあまりにも受け身の対応です。まずは、ここからただす必要があるのではないのでしょうか。生活保護費は、国民の権利です。

生活保護を利用する方が、知らないことによる不利益が生じることのないように、保護行政の側から提案し、積極的にその人に会った支援を適用させていくことを求めました。



中東情勢緊迫による 資材不足、物価高騰への対応について



中東情勢が緊迫する中で、原油に由来する製品不足、資材の供給遅れと価格高騰について、市内事業者の実態と市の対応について取り上げました。

市内の塗装店では、一時期、シンナーや塗料の入荷が遅れている、仕事するための材料がないという事業継続にもかかわる状況があるという声が聞かれていました。

市では具体的状況は把握していないということですが、政府が説明している供給の「目詰まり」が具体的にどういう状況なのか、見通しがあるのか、市から適時、適切な情報提供を求めるべきだといただきました。

そのうえで、市の相談窓口を明確にして、事業者の困りごとに親身に対応できる体制を求めました。

一方、1月臨時議会で提案された「中小企業物価高騰対策支援事業」は、予算の2000事業者の枠に対して申請は、半分にも満たない860にとどまっていることが明らかになり、燃料をはじめとした物価の高騰で苦境にある中小事業者に対して、必要な支援が行き届いていないことは、大変重大な事態であると指摘し、事業内容の周知の強化と中小事業者に対する親身な対応を求めました。

